

凍結防止について

1. ヒートポンプユニット配管の凍結防止

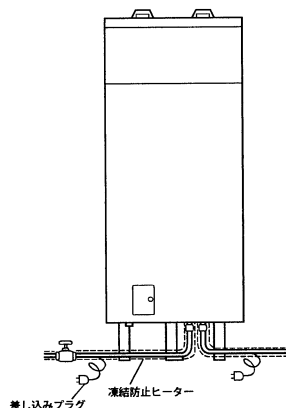
- 外気温が下がると、循環ポンプが運転します。さらに温度が下がるとヒートポンプユニットを自動的に運転して、ヒートポンプユニット配管の凍結を防止します。

2. 凍結防止ヒーターによる方法

- 気温が0℃以下になると、保温工事をしていても凍結のおそれがありますので、据付説明書どおりの配管工事をしてください。
- 水が凍るような時期になりましたら、右図の凍結防止ヒーターの差し込みプラグを100Vのコンセントに差し込んでください。暖かくなりましたら、プラグをコンセントから抜いてください。

お願い

- 電源は「入」のままにしてください。通電していないと凍結防止のための運転ができません。



3. 排水・水抜きによる凍結防止

- 外気温が凍結温度まで下がるような時期に数日間お使いにならないときには23ページの「通水後お使いにならないとき」に従って排水・水抜きを行なってください。

通水後お使いにならないとき

- 通水確認後や使用開始後、一カ月以上お使いにならないときには、下記の方法にしたがって対応してください。

注意

- 1カ月以上使用しないときは元電源の漏電遮断器を「切」にして貯湯タンクユニットの排水をする
- 水質が変化することがあります。



排水

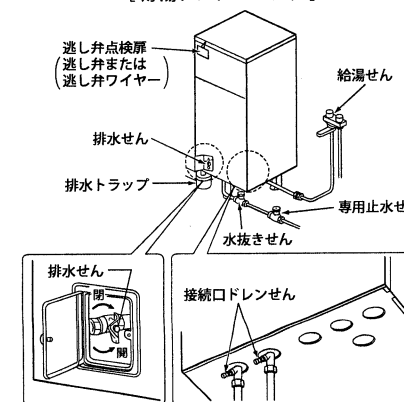
対応方法

- お使いにならないときには、次の手順で各部の排水および水抜きを行なってください。タンクの水は変質するおそれがありますので、必ずすべて排水してください。
- 各部の排水および水抜きを行なってください。

排水・水抜き方法

- ①元電源の漏電遮断器のレバーを『切』にします。
 - ②専用止水せんを閉じます。
 - ③給湯せん、給水側の水抜きせん、貯湯タンクユニット内の排水せんを開きます。
 - ④約40分～50分で水が抜けます。(排水できないときは、逃し弁点検扉を開いて逃し弁を手前に引く、または逃し弁ワイヤーを引いて逃し弁を開けてください)
 - ⑤貯湯タンクユニットの接続口ドレンせんを開きます。
 - ⑥各部の水抜きが終了したら給湯せん、貯湯タンクユニット内の排水せん・給水側の水抜きせん・接続口ドレンせんを閉じます。
- ※専用止水せんは閉じたままとしてください。
- ⑦各部の水抜きが完了したら、漏電遮断器のレバーを『切』のまま、次にご使用になるまで通電しないでください。

[貯湯タンクユニット]



再び使用するとき

- ①排水せんを閉じます。
- ②専用止水せんおよび給湯せんを開きます。
- ③給湯せんから水が出てきたら給湯せんを閉じます。